

広告

創業44年  ロイヤルハウジンググループは「小さな親切心」を持って「しあわせのお手伝い」をしております

4つのホットな支援サービス 子育て支援 障がい者支援 高齢者支援 働く女性支援(働き方改革)

今年こそは、拉致問題の解決を

心をつなぐ Vol.5 めぐみちゃん、早く会いたい

谷本：北朝鮮による拉致が判明して20年が経ちます。署名活動などで政府に訴え続け、国内外での講演会も1000回を超えたそうです。



横田 滋さん 横田 早紀江さん

ただ祈るだけ わたしたちには、もう時間がありません
谷本有香(以下、谷本)：この40年、今の率直な思いは？
横田早紀江(以下、横田)：今が一番しんどいし、苦しいです。私は81歳、主人は85歳になりました。心身ともに消耗してきて、思うように動けないことにイライラして。
谷本：滋さんの体調はいかがですか？
横田：足腰が弱って、週に数回デイサービスを利用しています。言葉も出づらくなって、自分の思った言葉がちゃんと組み合わせて話せていない状態になってきました。それでも「めぐみちゃんに会いたい、会いたい」と毎日言っています。

横田めぐみさんは1964(昭和39)年10月生まれ。日本銀行に勤めていた父・滋さんの転勤で新潟に引っ越した翌年1977年11月15日、当時13歳(中学1年)のめぐみさんは、突然消息を絶ちました。バドミントン部の練習終わり、日も暮れて日本海へと向かう寂しい帰り道。母が待つ温かい家までは、あとわずか数分の距離

でした。あらゆる手を尽くし探しても何の手掛かりも得られないまま、ある日突然、横田夫妻の元に思いがけない知らせが届きました。めぐみさんが北朝鮮に拉致されて、平壤で暮らしているかもしれない。失踪から20年、ようやく判明した驚愕の事実でした。以来、他の行方不明者家族と「家族会」を結成し、今に至るまで、拉致被害者救出を求める活動を日本各地や海外で続けています。



家族提供

谷本：2007年7月には今年の漢字に「北」が選ばれるほど、北朝鮮という国の恐ろしさが世界的にも明らかになった年でした。
横田：そうですね。北朝鮮の実情が、誰にも信じてもらえない時代がありました。救出活動を始めた初めの頃は、署名の看板を「こんなものなんだ！」と叩き落とされたり、「本当に拉致なんてあるんですか？」という人もいました。2002年に小泉首相(当時)が訪朝し拉致被害者5人が帰国して、ようやく信じてもらえた。それでも、めぐみは死んでいると偽の遺骨が送られてきました。私は「これはめぐみじゃない」と絶対に信じなかったけれど、そういうことを平気でする国を相手に、日本はなんてのんきなだらう、と思います。

感謝 すべてがありがたいです
横田：めぐみの誕生日になると、同級生たちがめぐみ宛てに手紙をくれるんです。みんな「早く帰ってこないかな」と、「今何してるの?」「あんなにお花が好きだったけど、あなたの好きなお花は咲いたの?」「とかな、そんなことを書いた手紙が今も届きます。
谷本：私たち国民が世論をつくること以外に、何かできることはありますか？
横田：全国の皆様にも本当にいろいろな形で応援してください。すべてがありがたいです。皆様からどうしたらいいですか?と聞かれますが、私の方もどうしたらいいのだから、私の方もどうしたらいいのだから、けれど国交もない国が相手では、個人の力は、あまりにも無力です。

谷本：2007年7月には今年の漢字に「北」が選ばれるほど、北朝鮮という国の恐ろしさが世界的にも明らかになった年でした。
横田：そうですね。北朝鮮の実情が、誰にも信じてもらえない時代がありました。救出活動を始めた初めの頃は、署名の看板を「こんなものなんだ！」と叩き落とされたり、「本当に拉致なんてあるんですか？」という人もいました。2002年に小泉首相(当時)が訪朝し拉致被害者5人が帰国して、ようやく信じてもらえた。それでも、めぐみは死んでいると偽の遺骨が送られてきました。私は「これはめぐみじゃない」と絶対に信じなかったけれど、そういうことを平気でする国を相手に、日本はなんてのんきなだらう、と思います。

谷本：めぐみさんはどんなお子さんでしたか？
横田：本当に明るくて、お外から、おもしろい子でした。動物や植物や自然が大好きで、いつも外を駆け回っていました。いろんな花で押し花をつくれたり、大きなガマガエルを捕まえて可愛がったり、まだ産毛もないような小鳥に一生懸命エサをあげたり、捨て猫を拾ってきたり、驚かされることも多かったんです。
横田：今朝、片づけをしていたらめぐみの小学校3年生のときの日記が出てきて。雨や水たまり、空や雲の形について疑問に思ったことなどが書いてあってしみじみと読みました。「ああ、こういうことを細やかに見ていたのだな」と。
谷本：素敵な家族写真もたくさん拝見しました。
横田：小学校の運動会ときの笑顔

谷本：めぐみさんはどんなお子さんでしたか？
横田：本当に明るくて、お外から、おもしろい子でした。動物や植物や自然が大好きで、いつも外を駆け回っていました。いろんな花で押し花をつくれたり、大きなガマガエルを捕まえて可愛がったり、まだ産毛もないような小鳥に一生懸命エサをあげたり、捨て猫を拾ってきたり、驚かされることも多かったんです。
横田：今朝、片づけをしていたらめぐみの小学校3年生のときの日記が出てきて。雨や水たまり、空や雲の形について疑問に思ったことなどが書いてあってしみじみと読みました。「ああ、こういうことを細やかに見ていたのだな」と。
谷本：素敵な家族写真もたくさん拝見しました。
横田：小学校の運動会ときの笑顔

谷本：めぐみさんはどんなお子さんでしたか？
横田：本当に明るくて、お外から、おもしろい子でした。動物や植物や自然が大好きで、いつも外を駆け回っていました。いろんな花で押し花をつくれたり、大きなガマガエルを捕まえて可愛がったり、まだ産毛もないような小鳥に一生懸命エサをあげたり、捨て猫を拾ってきたり、驚かされることも多かったんです。
横田：今朝、片づけをしていたらめぐみの小学校3年生のときの日記が出てきて。雨や水たまり、空や雲の形について疑問に思ったことなどが書いてあってしみじみと読みました。「ああ、こういうことを細やかに見ていたのだな」と。
谷本：素敵な家族写真もたくさん拝見しました。
横田：小学校の運動会ときの笑顔

孫キム・ウンギョンさんに伝えた「希望」
谷本：2002年、めぐみさんの帰国は叶いませんでしたが、お孫さんの存在が明らかになりました。
横田：驚きました。ビデオメッセージで「おじいちゃん、おばあちゃんに会いたい。平壤に来てください」と言ってくれて、もううれしくても会いたかったけれど、そう簡単には事情が許さず。ずいぶん時間がかかって、2014年にモンゴルで会うことができました。当時26歳のウンギョンちゃんは結婚して、女の子のお母さんになっていました。私たちにとってはひ孫です。めぐみの小さい時にそっくりでした。よく食べ、歩行器で部屋中をニコニコながら走り回っていました。まだ話せないこともある、緊張感がある中でも、そこには普通の家族団らんがありました。
谷本：血のつながった孫なのに、会えるまでに何十年もかかった。それも、モンゴルという遙か異国の地でした。それが「拉致問題」なのですか？
横田：ウンギョンさんに初めて会った印象は？
横田：初めてパッと見たときは、よく似ているな。めぐみにも、私の小さい時にも。
谷本：大変な中で育っているのに明るくて、生き生きと、礼儀正しく、「ああ、めぐみちゃんがいる」と感じましたが、でも同時に「なんでここにこの子がいないんだろう」とも思いました。
谷本：どんなお話を？
横田：ウンギョンちゃんはめぐみが死んだと聞かれていますけど、私ははっきり言っていません。「おばあちゃん、あなたのお母さんのめぐみは、他の人たちと一緒に元気です。絶対に希望を持ってね。希望です」と。向こうも黙って、何も言えない顔をして緊張して聞いていました。
谷本：めぐみさんも、同じく娘を思う母でもありますよね。
横田：蓮池さんから、めぐみは子育てに苦労していたという話も聞きました。お乳が出なくて、ミルクで育てたとか。まだ母親としてのごときは何も教えていなかったので、ずいぶん苦労したろうな、かわいそうだなというも思っていました。めぐみが小さい頃、私のお古のスカートでめぐみの服を作り直してあげたりするのを楽しみました。めぐみはそんな姿をいつもうれしそうに眺めていたから、そういうことを思い出しながら頑張ったのだと思います。

谷本：めぐみさんはどんなお子さんでしたか？
横田：本当に明るくて、お外から、おもしろい子でした。動物や植物や自然が大好きで、いつも外を駆け回っていました。いろんな花で押し花をつくれたり、大きなガマガエルを捕まえて可愛がったり、まだ産毛もないような小鳥に一生懸命エサをあげたり、捨て猫を拾ってきたり、驚かされることも多かったんです。
横田：今朝、片づけをしていたらめぐみの小学校3年生のときの日記が出てきて。雨や水たまり、空や雲の形について疑問に思ったことなどが書いてあってしみじみと読みました。「ああ、こういうことを細やかに見ていたのだな」と。
谷本：素敵な家族写真もたくさん拝見しました。
横田：小学校の運動会ときの笑顔

谷本：めぐみさんはどんなお子さんでしたか？
横田：本当に明るくて、お外から、おもしろい子でした。動物や植物や自然が大好きで、いつも外を駆け回っていました。いろんな花で押し花をつくれたり、大きなガマガエルを捕まえて可愛がったり、まだ産毛もないような小鳥に一生懸命エサをあげたり、捨て猫を拾ってきたり、驚かされることも多かったんです。
横田：今朝、片づけをしていたらめぐみの小学校3年生のときの日記が出てきて。雨や水たまり、空や雲の形について疑問に思ったことなどが書いてあってしみじみと読みました。「ああ、こういうことを細やかに見ていたのだな」と。
谷本：素敵な家族写真もたくさん拝見しました。
横田：小学校の運動会ときの笑顔

インタビューー
ロイヤルハウジンググループ
上席執行役員
谷本 有香
証券会社、Bloomberg TVで金融経済アンカーを務めた後、米国のMBAを取得。世界の3000人を超えるVIPにインタビューしてきた。
Forbes JAPAN副編集長としても活躍中

とぎれることのない大きな母性愛
その勇気ある姿や、無条件で最上の愛を心に刻ませて頂きました。
横田：めぐみをはじめ、多くの被害者が、日々生きるか死ぬかの選択を迫られるような国で今も、早く助けてくださいと言っている。その声を忘れないでほしいです。そして「どうか皆さん、とにかく健康で、元気で」祈るだけです。
私の力の源は、祈りです。祈りが今まで支えてくれました。祈って待つ、信じて信じて、あきらめず待ってあります。
谷本：母性の危機が叫ばれている現代、今回のインタビューを通して、母としての子を思う、早紀江さんのごまごまの思いが伝わります。深く感じました。人として、母として、

健康企業宣言 創業44年  ロイヤルハウジンググループ
www.royal-h.jp ロイヤルハウジング 検索

グループ従業員430名、働く女性を支援します。 私たちと一緒に働きませんか? グループCEO 木島 寛

● 首都圏の不動産売買・賃貸・リフォーム ● 別荘・リゾートマンション・土地 ● 老人ホーム・サービス付き高齢者向け住宅

ロイヤルハウジング株式会社 | ロイヤルハウジング販売株式会社 | ロイヤルリゾート株式会社 | 東京ロイヤル株式会社 | 神奈川ロイヤル株式会社 | 埼玉ロイヤル株式会社

サ高住 運営会社様へ
入居者募集や管理業務を承ります。
0300-888-6186 担当: 小川・星野